

# 麦の穂学園 運営方針

## 基本方針

カトリック精神である隣人愛に基づき、子どもへの愛情と共感、あたたかいふれあいを通して自己肯定感を育み、子ども自らが未来を創る担い手になるよう養育・教育・療育をすすめる。

## 2019年度主要方針

先を見通して、今を努力する。

平成 30 年度の麦の穂学園は「思いやりを大切にすること」を目標に掲げ、子ども同士、子どもと職員、職員同士が相互理解をしていくように努めた。平成 31 年度は「先を見通して、今を努力する」を目標に掲げ、変革期において変えること、変えてはいけないことを考え、麦の穂の一人ひとりが、心身ともに健康で、周囲の人と信頼関係が築けるよう意欲的な取り組みをしていきたいと思う。子どもに寄り添い、言葉の受け止めを大事にし、職員が子どもに受け入れられる関係を構築していきながら、子ども自身が自信を持って生活に取り組めるよう応援していきたい。その援助と指導の実践を以下の項目として具体的に展開していきたい。

## 2019年度事業計画

- 1 子どもの主体的な成長を支援する。
  - ・ 部会や個別での関わりを大切にしながら、子ども達の気持ちに寄り添うことを大切にする。
  - ・ 性（生）教育を通して、生きることの大切さを子ども達に具体的に伝える。
  - ・ ケースカンファレンスと子どもの生い立ちの整理を保護者、関係機関、法人内で連携しながらすすめる。
  - ・ 自立支援計画表を学園、児童相談所と共通の認識に努め、子どもとの関わりや家庭支援に活かす。
  - ・ 子どもたちの生活環境の改善を計画的に行う。
- 2 人材の確保と育成、定着に努め、働きやすい職場づくりに努める。

個人の努力を麦の穂学園全体の力の向上と法人の取り組みの充実につなげるようにする。職員一人ひとりが意欲を持って取り組めるようチームをつくる。

  - ・ 全職員が職員確保を意識し、実習のあり方、指導内容等を検討し、児童養護施設の魅力を伝える。
  - ・ 会議・ミーティング、行事等を通して、職員の「育成・定着」を意識した、助言、指導、一緒に取り組む、任せる、評価することを丁寧に行う。
  - ・ 職員の期待する役割と責任を明確に伝え、同時に組織として機能が発揮できるよう具体的な取り組みを通して達成感を育む。
  - ・ 子どもたちの養育を中心に置きながらも、社労士の助言を受け業務改善に取り組む。
- 3 小規模化に向けた取り組みを考える。

家庭的養護推進計画の見直しに伴う、児童養護施設のあり方を検討する。

  - ・ ハード面小規模化のあり方（地域分散化、本体施設の改築）を検討する。
  - ・ 小規模化を意識した職員育成を考える。
  - ・ 子ども担当職員が食事づくりを体験し技術を身につける機会を持つ。